



荒れ果てた里山の再生と地域コミュニティの構築を目的に、倉吉市湊町の老人会青年部員らで組織された玉川東梅田山振興協議会(塚田広二会長)。里山の麓に周遊できる歩道や多目的芝広場を整備し、地域住民が集う憩いの場づくりに励んでいる。

「東梅田山」は、成徳地区を流れる玉川上流域に残る里山。かつてはため池があり、丘陵地には棚田や段々畑が広がるのどかな原風景が見られたが、管理者の高齢化などで手入れが難しく放棄地となっていた。

「子どもの頃から親しんできた里山をきれいにして復活させたい」。湊町自治公民館長を務める塚田さんは、3年前に協議会を立ち上げ、仲間

親しんだ里山を整備

■ 73 □

玉川東梅田山振興協議会

らと雑木の伐採を開始。見晴らしの良くなった丘陵地には、昨年度、県の令和新时代創造県民運動推進補助金を活用して手作り約2キロの遊歩道を整備。本年度は元農地を平地にならして芝広場を整備した。



里山の麓に芝を張り多目的広場をつくるメンバーら
倉吉市湊町

7月初めに実施した広場づくりには子ども会も参加。一枚手作業で芝を敷き詰め、根付きやすいように足で踏みしめていくなどの作業を進め、約230平方メートルの青々とした多目的広場を完成させた。今後は作業小屋や高台への展望場所も整備していく予定だ。

「里山再生には、地域の防災力を高める意味もある」と塚田さん。環境整備で山を維持管理することで土砂災害などを未然に防ぎ、行事やイベント交流で地域コミュニティを図ることで、非常時の安否確認に生かすこともできる。

塚田さんは「住民自らの手で地域を維持していくことが大事。里山の再生を基軸に地域を盛り上げ、次世代へとつなげていきたい」と力を込める。